

A区分・C区分共通  
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきざいだんほうじん うめわかけんのうかい 公益財団法人 梅若研能会	団体ウェブサイトURL <a href="http://www.umewakakennohkai.com/">http://www.umewakakennohkai.com/</a>	
代表者職・氏名	理事長 梅若万紀夫		
制作団体所在地	〒 151-0066	最寄り駅(バス停)	代々木上原
	東京都渋谷区西原1-4-2		
電話番号	03-3466-3041		
ふりがな 公演団体名	こうえきざいだんほうじん うめわかけんのうかい 公益財団法人 梅若研能会	団体ウェブサイトURL 制作団体に同じ	
代表者職・氏名	理事長 梅若万紀夫 (梅若万三郎)		
公演団体所在地	〒 制作団体に同じ	最寄り駅(バス停)	制作団体に同じ
	制作団体に同じ		
制作団体 設立年月	昭和49年10月11日財団法人、平成24年4月1日公益財団法人 認定		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	理事長 梅若万紀夫 (梅若万三郎)	理事11名 監事2名 評議員10名 事務局員4名	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者 を置く	本事業担当者名	梅若志長
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	塚本忠男
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	<a href="mailto:staff@umewakakennohkai.com">staff@umewakakennohkai.com</a>		

<p>制作団体沿革</p>	<p>梅若研能会の前身である梅若万三郎家の歴史は長く、およそ600年に遡る。発祥については諸説あるが、左大臣橘諸兄を祖とする。初世梅若万三郎は五十三世実の長男だが、弟の六郎に本家を譲り、現在の万三郎家を起こす。昭和3年1月研能会を設立し、以降昭和19年戦争激化のため休会するまで研能会の演能回数は155回を数えた。昭和21年染井松平家能舞台で再開し、以後今日まで毎月公演を継続している。昭和49年10月に財団法人に改組し、平成24年4月内閣府の公益財団法人の認定を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 海外公演もベルギー、フランス、ドイツ、ラトビア、イギリス、ロシア等、多くの国々で催行してきた。令和元年は久しぶりにドイツ、スイスの公演が実現。チューリッヒ、バーゼル（スイス）ベルリン、ケルン（ドイツ）の4公演でいずれも好評を博した。</li> <li>● 現理事長は、梅若万紀夫（三世万三郎）</li> </ul>					
<p>学校等における公演実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成28年から「文化芸術による子供育成総合事業」に制作及び出演団体として参画している。</li> <li>● 平成21年から令和元年まで、幼児・小学生を対象に「事前講座付 親と子の能楽教室」を開催してきた。令和元年の演目は「鞍馬天狗」で、花見場面の稚児役に8名の小学生を当て、共演した。 令和2・3年度はコロナ禍の自粛措置により公演を中止をした。 (注) この事業は、一般財団法人伝統芸術振興会から承継 通算40回。</li> <li>● 青山学院初等部 3年ごとにワークショップ、能公演を開催。前回は平成30年11月に能「土蜘蛛」、狂言「盆山」を国立能楽堂で催行した。</li> </ul>					
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成22年 埼玉県立本庄特別支援学校</li> <li>● 平成23年 京都市立鳴滝総合支援学校</li> <li>● 令和元年6月 青森県立八戸第一養護学校（令和元年6月26日（水）実施）</li> </ul> <p>* 青森県立八戸第一養護学校は、小中高の一貫校で重度の障害をもつ生徒もいるが、車椅子の生徒が多い学校。車椅子の生徒に舞台体験させたい校長先生の意向を踏まえて、源頼光役は車椅子、胡蝶役は歩行に杖を使う生徒を選び実技指導をした。その結果、両名とも不安を抱えながらも立派に舞台を勤め上げた喜びと充実感を持ったようである。 本公演には、重度障害の生徒も含めて全校生徒が参加鑑賞した。 先生がマンツーマンで生徒に付き添う光景は、ただただ頭が下がる思いであった。</p>					
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>無</p>				
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p><a href="http://youtu.be/-/Fat7FqGsRg">http://youtu.be/-/Fat7FqGsRg</a></p>				
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<table border="1"> <tr> <td>ID:</td> <td></td> </tr> <tr> <td>PW:</td> <td></td> </tr> </table>	ID:		PW:	
ID:						
PW:						

## 公演・ワークショップの内容

【公演団体名 公益財団法人 梅若研能会 】

対象	小学生(低学年)	○					
	小学生(中学年)	○					
	小学生(高学年)	○					
	中学生	○					
企画名	たいけんから学ぶはじめての能						
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	狂言「柿山伏」 作者不詳 能「土蜘蛛」 作者不詳 【プログラム構成】 1. 挨拶と狂言演目説明 (5分) 2. 狂言「柿山伏」上演 (15分) 3. 狂言ワークショップ (10分) 4. 能の演目説明と通し稽古 (10分) 5. 太鼓体験 (10分) 6. 全校生徒謡(または手拍子)の稽古 (5分) 〈休憩10分〉 7. 能「土蜘蛛」上演 (25分) 8. 質疑応答 (10分)				公演時間	100	分
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名				
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済			
演目概要	●狂言『柿山伏』は主人公「山伏」が柿を盗もうとするところを柿の持ち主「柿主」に見つかり、猿や鳶（とび）の真似をさせられ、自分の罪を覆い隠そうとする姿を描いた作品。 ●能『土蜘蛛』夜更け、病に伏せる源頼光の前に現れた不気味な僧は、自らが土蜘蛛であると名乗ると千筋の糸を投げかけるが、頼光の反撃にあい逃げてゆく。その知らせを聞いた頼光の家臣、独武者は土蜘蛛が住むという葛城山へ退治に向かう。						
演目選択理由	●生徒が参加、共演、体験を通じて、能楽への興味と関心を持つことを演目選択の基準にしている。 ●狂言「柿山伏」は小学6年生の国語の教科書・光村図書出版「わたしの授業6年」にも取り上げられる代表的な演目である。内容は分かり易く狂言の特徴的な要素の物まねを観ることができる。 ●能「土蜘蛛」は、ストーリーも判りやすく、場面展開も華やかで、始めて能を観る生徒たちに適した演目です。 ●「胡蝶」と「頼光」の二役を生徒に共演してもらうため、セリフを短くして覚えやすくし、また、後見役を付けてサポートする等々、共演できる態勢を整え易い。						
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	●胡蝶と頼光の役を生徒2名が装束を付けて能楽師と共演・体験します。 ●太鼓を打ってみよう。代表生徒6名から2名を太鼓方の能楽師が指導します。全校生徒も指導に合わせてバチ捌きの所作をします。 ●公演の直前稽古で、詞章を囃子にあわせて能楽師とともに謡います。(全校生徒) 公演時もシテ(主人公)とともに生徒全員が合唱します。(全校生徒) ●新型コロナウイルスの感染状況によっては、声が出せない状況でも体験可能な動きを真似してもらう内容に変更する。						
出演者	●シテ方 梅若万三郎、中村裕、青木一郎、遠田修、伊藤嘉章、加藤真悟、八田達弥、梅若紀長、長谷川晴彦、梅若泰志、古室知也、梅若久紀、青木健一、中村政裕、梅若紀佳、梅若志長、萩原郁也、梅若千音世、加野鉄音、梅若雅一以上20名より公演期間似合わせ11名を選定する。 ●ワキ方 2名●狂言方 4名●囃子方 4名 共に(社)能楽協会会員より選定する。 (例) ●ワキ方 野口能弘、野口琢弘、梅村昌功、村瀬堤、村瀬慧 ●狂言方 奥津健太郎、野口隆行、山本則重、山本則孝 ●囃子方 梶宅聡、栗林祐輔、飯富孔明、住駒充彦、大倉慶之助、柿原光博、徳田宗久、梶谷英樹 ※下線は重要無形文化財総合指定保持者						
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者:	20	名	運搬	積載量:	1.2	t
	スタッフ:	2	名		車長:	4.6	m
	合計:	22	名		台数:	1	台
本公演 会場設営の所要時間	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間	時間程度			
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出	

(タイムスケジュール)の目安	10時50分	11時～11時30分	13時30分～15時10分	10分	15時30分～16時00分	16時
	※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。					

<b>本公演 実施可能日数目安</b> <small>※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)</small>	6月	7月	8月	9月	10月	
	5日	5日			10日	
	11月	12月	1月	計	50日	
	10日	10日	10日			
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。						

<b>児童・生徒の 参加可能人数</b>	<b>本公演</b>	共演人数目安	8人
		鑑賞人数目安	10人～600人

通常は体育館のステージをバックとして、舞台を設置します。(上の画像)  
 舞台設置に必要な面積(横幅17メートル・奥行8.5メートル)  
 体育館の幅が広くバックヤードの目隠しが出来ない場合、体育館のコーナーを利用して設置したケースもあります。(下の画像)





公演に係るビジュアルイメージ  
 (舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。





【公演団体名 公益財団法人 梅若研能会 】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	8人から600人
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>体育館でステージを使用せず、なるべく生徒が間近で装束や能面を見れる環境を作る。 能舞台の空間は体育で用いるコーンなど、学校にある備品を用いて表現する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>挨拶・演者紹介（2分）</li> <li>仕舞の実演（3分）・・・能の一部分を紋服で演技する事により、謡の声の力強さ、ハコビなど能独特の動きを体感してもらう。</li> <li>能についての説明（5分）・・・本日のワークショップ並びに能公演で何を体験して貰うかの簡単な説明と、基本的な能についてのお話。</li> <li>装束の着付けと解説（20分）・・・男性が女性の役を演じることが出来る能の特性を理解してもらうため、学校の先生に装束を着せ付けて見せる。また、この中で能の衣装や能面についての解説を行い、伝統的な工芸品についての説明、物を受け継ぐことの大切さを伝えてゆく。</li> <li>出演候補者の選考（20分）・・・生徒から8名程度の代表者を選んで頂き、その代表者に面を掛けてのハコビ、謡の稽古を行い、プロと共演できる候補4名（胡蝶・頼光）を選出する。 他の生徒にはその様を見ることで、能舞台に立つ上で必要な要素を知ってもらう。</li> </ol> <p>【休憩10分】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>演技の稽古（代表4名）、ハコビ・謡体験（全校生徒）（25分）・・・代表に選ばれた4名には、実際に演じる稽古を付け、更に本番参加の2名を選ぶ。 (選に漏れた4名は本番では後見、幕上げとして舞台を作る裏方や、太鼓の体験の代表者として参加する) 同じ時間に参加生徒全員にはハコビ（摺足）を指導、体験してもらうことで能の動きには、日本古来身体法があるのだということを知ってもらう。</li> <li>代表者実演（10分）稽古をした代表者がみんなの前で実演。その成果で当日の配役を決める。</li> <li>終わりの挨拶と当日出演者への説明（5分）・・・当日出演者には公演当日に事前稽古を行うので、それに対する案内を行う。</li> </ol> <p>(合計100分)</p>		
ワークショップの ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>●まず、ワークショップの最初、先生に装束を着付けることで「生徒には見慣れている先生が能の女性に変身出来た」という驚きを与えたい。そして、能装束、能面を着けた先生が動きを見せることで、能舞台上で行われる特別な動きに関心をもって貰いたいと考える。</li> <li>●次に、本公演で能楽師と共演できる生徒を代表者から選出する。オーディションのような形を取ることで、能に関心を持ち、より参加に意欲的な子供が自分を表現できる機会を設ける。 ただし、ワークショップの後自分で稽古に取り組んでいかななくてはならないため、選出には担当教員との相談を行うようにする。</li> <li>●他の生徒はこのオーディションの様子を目にすることになるため、誰が選ばれるのか代表者の取り組む姿に興味を持ち、代表者がどのように本公演を勤めるのか、関心を持って公演を鑑賞するようになる。 本公演で舞台に立てるのは一部の生徒になってしまうが、みんなが共感できる公演になるためのワークショップと位置付けている。</li> </ul>		
その他ワークショップに 関する特記事項等	<p>なるべく間近で見て貰えるよう、場合によっては子供が取り囲んで見れるような形をとる。 ハコビの稽古など大人数を対象として表現する場合は、ステージ上を使用する事もある。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		

本事業に対する  
取り組み姿勢、および  
効果的かつ円滑に実施  
するための工夫

### 1. 本事業に対する取り組み姿勢

- この事業を通じて、始めて能を見る生徒たちが、参加・体験することによって、能へ関心と理解が深まり、結果として将来の能楽愛好の客層醸成に繋がることを目指しています。
- ① 学校には、演目のあらまし、合唱部分の詞章及び役の種類、役割等をテキストにして配布します。
- ② ワークショップでは、テキストに基づいて解説し、内容の理解を図ります。詞章の意味を理解した上で、一部を全員での合唱。能面を付けての歩行(摺り足・ハコビ)等の基礎的な体験をします。
- ③ ワークショップ及び本公演とも、生徒たちの参加、共演を主体とした構成にしています。「土蜘蛛」の頼光と胡蝶の役を勤めてもらいます。能装束を付けて能楽師と舞台に上がることに感動を覚えるでしょう。また、舞台上がらない子供たちには、伝統の重みやそれを受け継ぐきちんとした姿勢を感じてもらえるように、司会と体験の指導者が鑑賞・体験の姿勢など重ねて説明するようにします。

注)合唱はコロナの状況により変更もあります。

- 公演後に送られてくる感想文に「機会があれば観てみたい」「社会科の教科書でしか見たことがなく、今日お能を見て迫力に圧倒された」、「日本の伝統文化を知る機会になり、良い経験になった」等の感想文が寄せられています。

(太鼓の稽古)

(能面を付けてすり足歩行の稽古)



### 2. 事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

- 公演直前に、最終稽古をします。ワークショップで稽古したものを、確実に本公演で発揮できるよう再度所作及びセリフの確認を行います。また、詞章の一部を全員でリズムに乗って謡うために、太鼓方の能楽師に代表生徒2人に対して太鼓の稽古をしてもらいます。

註)コロナの感染状況により、謡を手拍子に変更することもある。

- ワークショップ前後に、学校とのコミュニケーションを密に取り、トラブル、アクシデント防止に努めています。

本会は、平成20年～25年の6年間と28年～令和元年～4年(本年も実施中)本事業に参加しております。本会の能楽師たちは、ワークショップ及び本公演を通じて、いかにして能に興味・関心を持たせるか、工夫を重ねてきました。そして、能楽師と生徒の共演を平成28年から実施しています。

頼光・胡蝶役を勤めた生徒が「装束は重く暑い」、「動くのが大変」、「貴重な体験ができて一生の自慢、幸せ者」といった体験ならではの声を届けてくれました。

本会としては、このような機会を持てたことは、演者冥利に尽きる想いであり、将来の能楽愛好の客層醸成に役立つものと受け止めており、この事業活動を長く続けたいと思う所以です。